

さくららっこども学園



小学生用の個室。



高校生用の個室。



親子訓練室が用意されている。



みんなで食事する食堂。



子供たちにお菓子のプレゼントをする平野選手。



説明していただいたさくららっこども学園の立坂守氏(左)と下野政嗣氏。



さくららっこども学園入口。

競輪はこども達の明るい未来も支えています。

兵庫県赤穂市新田にある児童養護施設「さくららっこども学園」は、平成21年度に競輪公益資金による補助金の交付を受け、平成22年4月1日に開設した施設です。

児童養護施設とは保護者の経済的な理由や病気などで教育困難となった時や保護者からの虐待を受けている等を理由として、おむね1才から18才までの児童を養育する施設です。

今回、こちらの施設を兵庫支部の平野豊選手に見学していただきました。

また、さくららっこども学園施設長の下野政嗣氏から、学園について説明を頂きました。

さくららっこども学園では定員は42名のところ、現在(平成23年1月28日時)幼稚園

前2〜3才児が7名、幼稚園児が4名、小学生が11名、中学生が9名、高校生に該当する子が3名の34名が生活しています。

今年1月の初めに、ランドセルが4つ、赤穂警察署に置かれ、お年玉として、児童養護施設に届けて欲しいと差出人が伊達直人と明記された手紙が添えられていたと報道されたので、児童養護施設「さくららっこども学園」というのは聞いて頂いた事はあると思います。児童養護施設はなかなか新しく出来ない施設で、全国でも580弱あるそうですが、昔からあるような施設が多く、新しい施設というのは本当に少なく、この施設のように昨年度、新しく開設したというのは稀な形だそうですね。

今回の施設の建設に当たっては、「子供達にとつてなが一番良いのか」を建設前から話し合い、その結果、小学校1年生から高校生は個室にして自分の部屋を用意



兵庫支部の平野豊選手。

分のスペースを用意してあげるといふ事で、取り組んだそうです。中には贅沢だといふご意見もあるようですが、そこは、長年、児童養護施設に係わってきた経験から、施設の子供達が健やかに育つ為には、プライバシーの確保が重要であると判断し、最優先事項として決定したそうです。男子棟、女子棟それぞれ15名の枠がありますが、全員部屋が用意されています。幼児は、いくつかの部屋に分けて生活しています。

また、児童養護施設に対する偏見、地域との連携や、それぞれの課題等もあるようで、とても大変なお仕事ですが、恵まれない子供たちを健やかに育てていただきたいですね。

平野豊選手のインタビューは32ページに掲載しています。